

栄光

『新しい契約』

説教

エレミヤ書31章31節～34節
ローマの信徒への手紙3章21節～31節

岸 俊彦

説教・	
「新しい契約」	
岸牧師……………	1
特集・	
心に残る教会…	2
追悼・	
平山みつし姉…	5
野坂好生兄…	5
成人祝福式…	6
牧師の書き込み…	7
牧師の書斎から…	7
長老のファイル…	8

「われわれはようやく『資本の無限の拡張』に疑いの目をむけつつある。とすれば、われわれに突き付けられた問題は、資本主義の限界というより、富と自由の無限の拡張を求め続けた近代人の果てしない欲望の方にあるのだろう」（佐伯啓思『資本主義』の臨界点）。「富と自由の無限の拡張を求め続ける人間の果てしない欲望」は近代人の問題ではなく、聖書によれば人間の原罪です。神は人間の原罪に天から怒りを下します。「ところが今や」（3・21）、「今の時に」（同26）神の義が示されました。「イエス・キリストを信じるにより、信じる者すべてに与えられる神の義です」（3・22）。律法のように罪を自覚さ

せるために、罪人を裁く神の義ではありません。そもそも罪人の正体を暴き、自覚させようとしたにもかかわらず、律法は私たち自らを自覚するように導くことはできませんでした。キリストにあつて新しい時代が始まりました。「わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」（エレミヤ31・34）のです。「神の義は、イエス・キリストの真実によって、信じる者すべてに現されたのです。そこには何の差別もありません」（聖書協会共同訳3・22）。私たちの信仰を生み出したのは、キリストの真（信）実です。神が生きて働いてくださる、この

神の現実をキリストがその生涯をもって、かつて今もこれから明らかにしてくださいませ。「わたしたちが誠実でなくても、キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を否むことができなからである」（2テモテ2・13）。神の義という巨大な超越的なものが、個々の人間まで到達するのは、私たちの信仰によるのではなく、また私たちの信実によるのではなく、キリストの信実によります（大木英夫）。

このキリストの信実こそ、御心のままにと神の義に従ったキリストの十字架による全ての者の贖いです。キリストが罪の奴隷だった私たちが身請けするために、その代価となってくださいました（マルコ10・45）。

キリストの贖いにはもう一つ意味があります。「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました」（ロマ3・25）。旧約の伝統に則って主なる神は御子を全ての罪を償う供え物と定められました。その御心に従ってキリストは自らの血＝命を十字架に注がれ

ました。私たちの救いを実現するためです。

パウロが語るキリストによる神の義の実現の背後には、ユダヤ人の歴史があります。律法があり、預言者がおります。それらを全部担ってキリストは罪の奴隷である全ての者を身請けし、その罪を償うために自らの命を十字架に注がれました。

死すべき人間の罪が巨大なら、私たちが覆う闇も深い。しかし、その闇の中にまことの光が輝いています（ヨハネ1・5）。罪と死に勝利されたキリストの栄光です。「栄光」とは元々「存在自体の重さ」を意味します。この生活と人生に、主の重さを感じて生きることが主の栄光のために生きることで、揺れ動く私たちの日々の暮らしに、主が重しとなってくださいませ。主は信じない者ではなく信じる者になるように、そして義しとされるように忍耐強く私たちを招いてくださいます。主の招きに応じて私たちはキリストを救い主と信じ、悔い改め、キリストにあつて主の約束を信じて、新しく生きようではありませんか。



心に残る教会

世界には、そして日本にも沢山の教会があります。

当教会、子どもの頃に通った教会、旅先で出会った教会…。

あなたの心に残る教会を教えてください。



ウィーンの教会

大橋ゆり

原稿依頼を受け、瞬時に脳裏に蘇った記憶がある。

以前の『栄光』にも書かせていただいたが、大学派遣の海外研修で2014年度ウィーンに留学した。到着から3週間の経った4月20日がイースター。オーストリアはカトリックの国なのでプロテスタント教会はとて少ないが、ネットですべて探してみたところ、住居から徒歩15分ほどの旧市街に「ルター派シュタット教会」を見つけた。

イースターの朝、足を踏み入れた会堂の正面には磔刑のキリストを描いた大きな画が掲げられていた。時間になり現れた長身の女性牧師は、風貌も髪形も女優のジュリー・アンドリュースを彷彿させ、加えて、美しい声でとても明瞭なドイツ語を話すのが印象的だった。

司式者はおらず全てを牧師一人で執り行うが、説教になると高い

説教壇が上がった。私の語学力が乏しく肝心の内容をきちんと理解するには至らなかったが「もし私が小指だけを差し出しても、神様は手全体をしっかりと握ってください」というフレーズを覚えていた。

礼拝後半に行われた聖餐は会堂前方に、一度に30人程の会衆が進み出て与る形式で、私も意を決して3巡目の輪に加わった。大きな金の杯からじかに飲むワインはアルコール度高めで、たじろいだ。ちなみに赤ではなく白で、そう言えばオーストリアは白ワインの国だったと得心した。

その後は日々忙しく、結局クリスマスまで教会に行けずじまい。12月25日、教会を再訪した。

礼拝の冒頭、件のジュリー牧師が登壇しただけで会堂内の空気が変わり、その佇まいに引きつけられた。「全くの闇の中に光があらわれた」招詞を聞いた瞬間、まさに神が私たちのために御子を遣わしてくださったのだと心にすんと落ちて、思わず涙がこぼれた。信仰の浅い私にも神様はこのような恵みを与えてくださるのだと心から思ったことである。

人生で最初に出会った教会は

榊原温子

私の最初に出会った教会は、今も毎週日曜日に礼拝に出席している経堂北教会です。私の教会との関わりは、私の母方の祖父母（細井勇・登志代）が、仕事の関係で大阪から東京へ転居したことが、始まりでした。

教会を決める前、母（細井潤子）が小田急線で聖書を読んでいた時に村田正亮牧師から声を掛けられたのが、経堂北教会に転会のきっかけだったようです。村田牧師はいつも満面の笑みで出迎えてくれたのを思い出します。祖父母の家では家庭集会が開かれていました。祖父は、クリスマスには和室の床の間に本物のもみの木に、赤、青、緑色のガラス玉や電飾をつけて近隣の子どもたちを招き、自らサンタクロースとなってプレゼントを配っていたのを覚えています。小中学校の頃は教会には行かず、高校生になって経堂北教会の

初穂会に出席するようになりました。高校2年の時、祖父が天に召され、私はその年のクリスマスに、村田牧師により洗礼を授けられました。

栄叔父が転勤となり、それまで住んでいた世田谷区若林から狛江に移って、優しい祖母と一緒に住めるようになりました。

高校を卒業し薬科大学に勤め始めた頃から正と付き合い始め、1966年経堂北教会で結婚式を挙げました。主人は、祖母（登志代）が亡くなったのをきっかけに信仰に導かれ、百合丘伝道所で受洗しました。しばらくは経堂と栗平とに分かれて通っていました。2014年に正の母が亡くなった時、葬儀を北教会ですべていただき、正は北教会に転会しました。16年前に私が退職し、漸く主人と共に毎週礼拝に出席できるようになりました。毎週水曜日夕方からの祈祷会にも共に出席して感謝の日々を過ごしております。主人は礼拝堂の清掃奉仕に、喜んで出かけております。いつの日か子どもたちが信仰を与えられますように祈っています。

兄弟姉妹の祈りに支えられて

鈴木こづえ

私が今までに出会った教会は、巢鴨教会（幼稚園の入園が始まり）、練馬栄光伝道所（開拓伝道）、札幌の琴似教会（夫の転勤）、経堂北教会（練馬栄光伝道所解散のため）です。

巢鴨教会は幼稚園卒園後も日曜学校に通いました。「日曜学校に行つてみたい」と友人に誘われ通いだし、受験などで離れた時もピリー・グラハム伝道集会に牧師に誘われて、そのことがきっかけとなってまた教会に通うようになり、高校生会、青年会の人との交わりの中で受洗へと導かれた教会です。

練馬栄光伝道所は、軽井沢高原教会の牧師を隠退され、経堂北教会で信仰生活をされていた藤本陽一先生を牧師としてお迎えして開拓伝道を開始した教会です。伝道所を始める時には月定献金をどのくらい捧げられるか尋ねられまし

た。法人として認められず、他からの援助もなく教会を維持してゆくには信徒の献金だけが頼りだったからでした。戸別、駅前でのちらし配布、週報の印刷、清掃などの奉仕を分担、協力して行いました。伝道所開設から解散までの10年ほど、礼拝出席者のための昼食を準備から片付けまで1人で奉仕してくださった方もいました。集う兄弟姉妹から具体的に主に仕えることを教えていただきました。

経堂北教会へは藤本先生ご夫妻が礼拝に出席されていること、大沢先生の夫人と私の義姉が友人であったこと、「経堂北教会はしっかりとした信仰を受け継いでいる教会だ」との兄の助言もあって通うようになりました。初めのころは教会での交わりには参加せず礼拝のみでしたが、次第にこひつじ会やノアの会などの集まりに参加するうちに教会の交わりに入れたいただき今に至っています。

以上の3つの教会では、御言葉で養われた、見えないようで見え、気にかけていないようで見かけて私のことを祈ってくれた兄弟姉妹がいたのです。

教会…祈り…

岩井直子

年末に岸先生から栄光への原稿依頼のメールをいただきました。せっかちな私は即お受けする旨の返信をしておきながら、タイトル「心に残る教会」に、ハテどうしよう？ 今まで主日礼拝で出席した教会と言ったら、経堂北教会以外は京都に滞在した折の洛陽、同志社、京都教会。洛陽教会では酒井基樹さんのご両親とご一緒させていただきました。新島襄邸の隣にある伝統ある教会で、清しい気持ちで出席しました。もう15年も前のことになります。

最近『夢をかなえるゾウ』という本が紹介されていて、タイトルにそそられて読んでみました。インドのガネーシャというゾウの姿をした神様の話ですが、なぜかこのゾウが関西弁。

「闇がなければ光も存在せんように、短所と長所も自分の持つてる同じ性質の裏と表になつとも

んやで」

「空気を明るくしてくる人の周りに人は集まるもんやで」

「そうだそうだ」と読み進めます。そのうちガネーシャから課題が出ます。

「靴を磨く」

「コンビニでお釣りを募金する」

「身近にいる一番大事な人を喜ばせる」

「人の長所を盗む」

「フムフム！そして最後の課題は

「やらずに後悔していることを今日から始める」

「人の成功をサポートする」

「毎日感謝する」

決して難しいことではないのに、日頃忘れている気持ちや行動を説くガネーシャの言葉に納得したり襟を正されたり。

どこに行つてもどこにいても、教会で祈りをささげながら、いつも謙虚であり、軸をぶらすことのない、神様に喜んでいただける「カッコ良い」生き方ができますように。大好きな経堂北教会の礼拝堂で祈れる幸せをかみしめています。

教会と私

石室優子

現在はすっかりここ経堂に根を下ろし、この経堂北教会で心穏やかに礼拝を守る日々を送っておりますが、20代、30代は、何度も転居をしましたし、「私、クリスチャンです」とはとも言えない生活を送っております。しかし日本ではどこに転居しようと日本基督教団の教会が近くにあるので、必ず地域の教会に恐る恐るおじゃましてみるのでした。

経堂北教会の名前を出してしまふと「おお！ 岸先生の教会ですね！」「四竈先生にはお世話になりましたー」など、もれなく歓迎を受けてしまうことが申し訳なく、いつしかクリスト教など全く知らない通りがかりの近所の人として、あちこちの教会にふらりと出席するようになりました。生まれる前から過ごしてきた経堂北教会との違いに驚くことはやはり沢山あり、ここには書ききれない

ほごです。

しかし特に忘れられないのは、とある教会の牧師ご夫妻にとてもご迷惑をおかけしたことです。若い当時の自分にとっては生死を分けるほどの危機的状況の中でその教会の戸を叩いた夜、牧師ご夫妻の対応はそれはつれないものでした。ショックを受けた私は、その瞬間にシャキーン！と目が覚めたように、教会とは人に助けを求めに行く場所ではない、という当たり前のことに気付いたのです。改めて、信仰告白の瞬間のように、神と自分の関係が太く真つ直ぐに繋がりました。

「教会で育ち、聖書を学ぶ環境を与えられた私は、主の御言葉から生きる力の全てを得ることができ。どんなに哀れな時も、神様に赦されていることを知っている私はどんなに強いことか。自分の足で立ち上がった!!」、若き日の私の心は叫びました。牧師ご夫妻の対応に、失礼な言い方をしていますが、今では恩人と思いいました。折に触れて感謝の気持ちで思い出しております。

追悼

母へ感謝をこめて

故・
平山みつし姉

母は、よく食べ、よくしゃべり、積極的に行動力のあるひとだった。

思い出として真つ先に浮かぶのは、洋裁を習って私たち姉妹に沢山洋服を縫ってくれたことだ。幼い頃お揃いの服を着て出かけるとよく双子だと間違われた。オリジナルデザインの服は友達が着ている服と違ってなんだか気恥ずかしかったが、今見るとモダンで手の込んだものだった。

父の赴任に伴い家族でアメリカで生活したことも思い出深い。公立学校の校風に馴染めずにいた私のために、私立の女子高校を探し出し、言葉の壁を越え、校長先生に直接交渉し、無試験で入学許可をとりつけてきた。同様に妹の中学編入をも決めてきた。急ぎ制服のワンピースを何着か縫いあげた。新学年直前だった。この時の

行動力には今でもとても感謝している。臨時に頼まれた日本語教室では教師として教壇に立ち、日本語より英語が堪能な子どもたちがいかに楽しく、わかりやすく授業ができるか工夫し、生徒や保護者に慕われていた。

30年続けた長唄と三味線は趣味を超え生活の一部となり、午前中の稽古を欠かすことはなかった。努力が実を結び杵屋三澄花を襲名した。話好きで次々に話が展開するも、いつの間にか最初に戻り、いつも驚かされた。

昨年2月に骨折し、手術、リハビリを経てようやく近所に買い物に出かけられるまでに回復していた。クリスマス礼拝への出席を楽しみにしていた矢先に倒れ、3日後家族が見守る中、息を引きとった。経堂北教会にて岸俊彦牧師に葬儀を執り行っていただき、お気に入りの着物、好きな花に囲まれたの旅立ちだった。

野坂好生さんは1月24日自宅で静かに天に召されました。享年93歳でした。葬儀は私と狩野進之佑牧師の司式によって27日自宅で執り行われました。2006年に103歳で逝去されたお母様の光子さんと同じように家族9人で見送りしました。

故・
野坂好生兄

「だ」と次男・和男さんが答えます。「ドン底とはこういうものかと思ったわ」と長女・寿美さんが述懐する生活から立ち上がり、会堂裏で楽しい日々を送るようになりました。聖公会の信徒だったお母様の信仰を引き継ぎ、1949年のクリスマスに寿美さん、翌年のイースターに好生さんが村田牧師から受洗しました。敗戦後の困難な時代、野坂さん一家や当時の信徒の皆さんの支えがあつて今日の経堂北教会があります。

1946年農林省技官だったお父様が46歳で逝去、官舎を出なければならず、村田正亮牧師の世話で野坂さん一家が会堂守となりました。木造の古い教会堂の6畳と浴室を改造した3畳ほどの部屋に、母、2男、2女の生活でした。「寒い日は礼拝堂に薪ストーブを炊くんだけど、慣れないことでもなかなか火がつかず、おばあちゃんに困っていたよ」と長男・好生さんが話すと、「一緒に会堂の掃除や礼拝前のワインの準備、パンを切ったりするほかに、ガリ版で週報を書くのが僕の役目だったん

好生さんは上石神井の自宅でお母様の最期まで一緒に過ごし、その後は姪の荒木裕子さんやご家族、ヘルパーさんに助けられながら独りの生活を楽しみました。ウクレレやハーモニカ、写真と多趣味でした。元気な頃は庭で何種類もの植物を育て、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なものは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」(1コリ3:6,7)との御言葉を実感したことでしよう。好生さんの生涯に主の恵みは十分でした。(岸 俊彦)

(長堀のぞみ)

成人祝福式

新成人になって

牧内 歩

初めに、この20年間皆様に育てていただいたこと、本当に感謝しています。

教会のない生活だったならば、こんなにも多くの大人の方々とお会いする機会も無かったでしょうし、教会は、ひとりっ子である僕にとって、兄弟がたくさんいて大家族の中にあるような心の拠り所となる場所です。

去年まで何回も成人祝福式を見てきて、新成人がとても偉大に見えて、自分も20歳になったらあんならだと思っていました。ただまだ未熟な子どもです。成人になったからには足りていない部分を見直して、改善しなくてはと思っています。

コロナウイルスが猛威を振るっています。僕たちは無事読売ランドで成人式を迎えることができました。そこで地元の友人が式の実行委員をやっていたことに驚きました。読売ランドの会場確保や

感染対策、片付けに翌年への引き継ぎまでを代表としてやってくれていたそうです。特に誰かが準備しているとも考えず、漠然とやってくる成人式に「たった15分の式に行く必要はない」と思っていた

思慮の足りない自分が恥ずかしくなりました。

実行委員の皆さんの徹底した準備と感染対策により、式後2週間経ちましたが誰一人感染したという報告は来ていません。彼らのように見返りを求めることなく人々に奉仕する姿勢を、新成人としても教会員としても持たなければなりません。

これからは、受けるばかりでなく皆様のようにならなければならない人間になっていきたいです。

成人になって

小川 彩音

今年、成人式を迎えました。しかし、正直なところ、あまり実感はありません。私は3月生まれなので、今はまだ19歳です。誕生日が来て20歳になったら、大人として色々なことが変わり、成人したという実感もわいてくるのかなと思っています。

先日、中学3年生の時に成人式を迎えた自分に宛てて書いた、「タイムマシン作文」が送られてきました。文章を読み返していると、5年前の当時から、様々なことが変化したなと思いました。中でも、環境の変化が大きかったと感じます。

約2年前にはやり始めたコロナの影響で、私たちの生活は今までは違う形になりました。学校に行って受けていた授業がリモートになり、パソコンと向き合う毎日になりました。友達と会って話したり、遊んだりすることも、なかなかできなくなっていました。

昨年の終わり頃に、ようやく大学でほとんどの授業を受けられるようになりましたが、来年度以降は、またどのような学生生活になるのか分かりません。生活が変化したこと、今まで当たり前だと思っていた日常のありがたみを感じました。コロナ禍自体は良い出来事と言えませんが、生活を振り返り、感謝や小さな喜びに気付くきっかけにもなったと思います。

約20年間、色々な出来事や変化がありました。コロナ禍をはじめとした様々なことが起きた中で今があるのは、周りの人たちの支えがあったからです。成人になってからも、自分に出ることを考え、周りの人の支えや日常に対する感謝を忘れずに、1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

● 牧師の書き込み

先月23日は愛知守山教会にて礼拝説教をさせていただきました。やや突然のこととなってしまいました。したが、所謂お見合い説教というもので、次年度の招聘に関わる重要なものでしたので、この度は急遽教会を空けさせていただきましたことになりました。名古屋市の北東部にある教会で、私にとっては久しぶりに郷里である愛知県に帰る機会にもなりました。初めての教会

ではありましたが、少し親しみを感ずることとして、私が高校時代を過ごした名古屋学院高等学校がこの教会から徒歩で30分ほどのところにあります。近いと言っても散歩気分です。挑まなければならぬくらいの距離は離れているのです。けれども、地図で近くに見覚えのある地名があるのを見ますと、それだけでなんだか懐かしさを感じるものです。

名古屋には私の出身校である名古屋学院と並ぶミッション系の学校として、金城学院があります。

はこのところリモート開催です。

2月6日に予定していた臨時教会総会は、当日の出席者が定足数に満たなかったため延期となりました。2月の長老会で改めて開催日を決める予定です。

その教会総会の準備をしている最中、パソコンのハードディスクが壊れました。この20年で3度目です。毎日使っているファイルはバックアップをとっています。昨年4月末までのデータも同様です。それ以降保存したデータはどうか？ 更新データをまめにバック

成り立ちとしては愛知守山教会は金城学院と関係が深いようで、金城学院と同じアメリカ南長老派教会の宣教師によってはじめられた教会だそうです。そうした地理的な近さや関係の深さ故か、教会には金城学院、名古屋学院、それぞれの元学校関係者だという方がおられました。それどころか私が直接教えていただいた先生が教会におられました。幸いと言うべきか、先生の方は私のことを覚えていないようでしたが、なんとも言えない気持ちにさせられました。

クアップしておけば良かったと反省してもどうにもなりません。

狩野先生が業者から修理とデータ復旧の見積をとりました。21万円とのこと。見積だと99%のデータ復旧ですから、残り1%が一番必要なデータだったら復旧の意味がありません。業者に修理・復旧を依頼するのは止めました。そのかわり2万円弱でデータ保存用のSSD（記憶装置）を購入しました。必要なデータは、壊れたハードディスクから取り出せるものは取り出しました。今のところ問題

現任陪餐では30名ほどの教会であるようですが、コロナ禍ということもあり、当日の出席者は20名弱といったところでした。2020年以降は無教となり、代務者と近隣の教会・学校の助けのもと、礼拝を続けてきたようです。丁度感染の拡大の時期と重なってしまいました。礼拝後は役員の方々と懇談の時を持つこともできました。役員会承認は無事終わり、2月には教会総会で招聘が確定します。祈りに覚えていただければ幸いです。（狩野進之佑）

● 牧師の書斎から



西早稲田にあるキリスト教会館に週1度、車で通っています。東京教区三役会のためです。このところ新型コロナ感染者発生への報が続きます。個人名は伏され、出勤状況、症状などが文書で回ります。閉館にはなりません。そのたびに部屋、トイレなどの消毒が入ります。教会附属幼稚園でも感染者が出て休園、検査と耳にします。そのため教区三役会、常置委員会

はなさそうです。パソコンを導入して33年、ますますITのことは分からなくなり、スマホも持たないながら、教会に必要なことだけは何とかOA化しています。面倒なことは狩野先生に任せます。目的がはっきりしていると、助けを借り、ネットを参考にしながら何とかなるものです。「必要は発明の母」と似たようなものです。それよりも、「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば必要なものは与えられる」という方が信仰的かもしれません。（岸俊彦）

個人消息



長老のファイル

昨年12月第1週の主日、私は初めて礼拝をライブ配信で守りました。入院中だったのでスマホにイヤホンをつけて。スマホで礼拝を守るというのは実に新鮮でした。小さな画面ですが会堂の様子はある程度わかりましたし、司式の進行も讃美歌も説教もクリアに聴こえ、礼拝に出席している実感は意外とありました。

コロナ禍により、試行錯誤の中

掲示板



- 灰の水曜日・レント 3月2日(水)
- 狩野進之佑牧師送別会 3月27日(日)
- 棕櫚の主日 4月10日(日)
- イースター 4月17日(日)
- 教会総会 4月24日(日)

編集後記



- ▽コロナ禍の影響で栄光編集委員会も一部、初のリモート開催となりました。楽な部分も大変な部分もありますが、今後のことも見据えて様々な方法を試していけたらと思います。(尾崎)
- ▽オミクロン株が猛威をふるい、同僚や友人にも感染する人が出ています。しかし、社会活動はしなければならず、悩ましいです。皆様もご自愛ください。(酒井)

で始めたライブ配信ですが、毎週一定数の視聴者もあり、自分でも体験してみて、始めてよかったです。あらためて思いました。また、その日は礼拝後ライブ配信視聴者の画像が会堂のプロジェクトに初めて映され、視聴者が大勢いれば目立たないだろうとタカをくくっていたら岸牧師が「病室から尾藤さんが参加しています」とおっしゃったので驚きました。まだ工夫は必要ですが、コロナ禍が収束した後もライブ配信は継続する方がいいと個人的には思っています。

2022年を迎えたところで、2022年に向けて、教会は色々準備をしていかなければならない時期に入りました。日程は未定ですが臨時教会総会が開催される予定です。議題は①狩野牧師の辞任、②岸牧師の任期更新です。狩野牧師は任期後半コロナ禍で様々な活動に制約を受けましたが、3年間研鑽を積み牧師に就任、4月から招聘された教会で牧会を始めます。経堂北教会宣教基本方針に基づき牧師として送り出すのは狩野牧師が6人目となります。狩野牧師の

これまでの働きに感謝し、喜んで送り出したいと思っています。岸牧師は来年度、教区の役職を離れ経堂北教会での働きに専心されます。また、伝道師を招聘しないので4年ぶりに1人教職体制となります。教会員の高齢化に加え、コロナ禍で礼拝出席人数も伸び悩み、財政的にも厳しい状況にあります。が、困難な時だからこそ経堂北教会がより一層神の御旨に合う働きができるよう、教会員・長老共々岸牧師を支え、祈りを合わせましょう。(尾藤美紗子)

「栄 光」2022年2月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦 牧師：狩野進之佑
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp